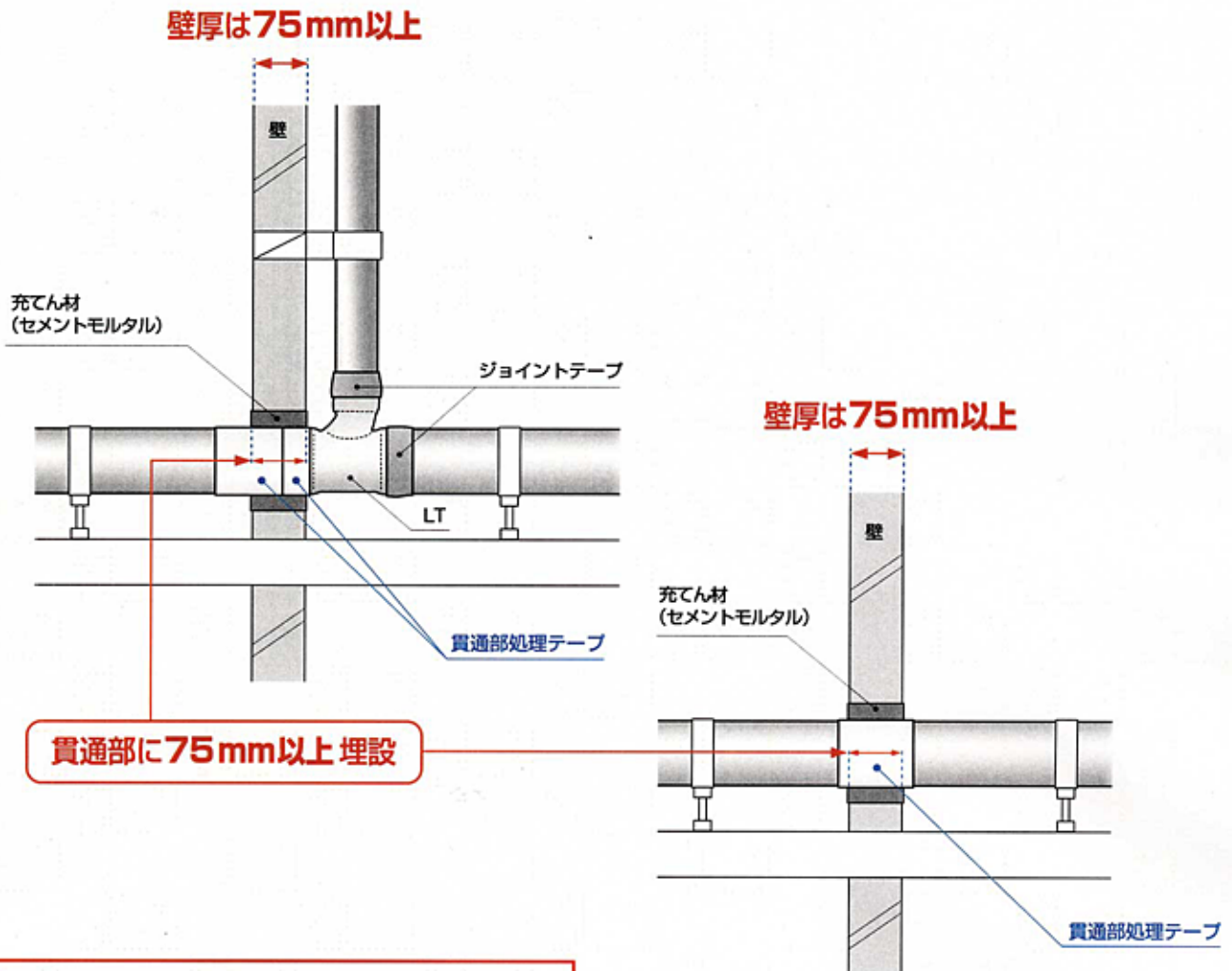


施工注意点

壁貫通の配管の施工例



⚠️ 要注意 ● 壁の構造

ALCパネル、または、鉄筋コンクリートの壁の厚さは、75mm以上あるものに施工してください。(認定条件)

重要

国交省大臣認定書、及び
(財)日本消防設備安全センター性能評定書より抜粋

	耐火音ナイン 呼び径	開口径	
		ホールソー径 (mm) (ALC壁)	ボイド管呼び径 (コンクリートスラブ壁)
直管	100	158	150
	75	140、135、130	150、125
	65	125、120、115	150、125
	50	105、100、95	100、90
	40	95、90、85	100、90
継手	100	155、150	150
	75	140、135、130、125	150、125
	65	115、110、105	125、100
	50	105、100、95	100、90
	40	85、80、75	90、75

- 上記の表は、認定条件 (占積率：直管69.8%以下、継手87.8%以下) を満たすサイズとなっています。
- 継手が貫通部に埋設される場合は、継手のサイズを参考にしてください。

⚠️ 注意点1 ● 床の開口部

耐火音ナインの呼び径に合わせて、開口部の穴の直径が、左の表のいずれかのサイズになるよう施工してください。(認定条件)

⚠️ 注意点2 ● 貫通部の処理

貫通部において貫通部処理テープが75mm以上埋め戻されるよう巻き付けたうえ、セメントモルタルを充填(じゅうてん)し、埋め戻してください。

⚠️ 注意点3 ● 埋設できない継手

伸縮継手、SS継手は区画貫通部に埋設しないでください。